

2018 (平成30) 年度 図書館司書課程 開講科目

基礎科目

生涯学習概論 生涯学習の歴史や概念、社会背景を知る

“生涯学習（教育）”の概念が示されたのは、半世紀ほど前のこと。世界中で社会の構造的な変化があり、それに呼応して人々の就業や生活の様式も変化を余儀なくされました。こうした社会背景や理念を紹介し、日本に浸透していく過程や関係法令、学習施設、推進体制などについて学びます。

図書館概論 今の社会における図書館の存在を考える

図書館に関して最初に学ぶ科目で、図書館の歴史的・社会的位置づけを概観するにあたり、ホームライブラリー（身近な図書館）を「使いこなす」ことからスタート。自らの見聞と基礎的な学びとを融合させ、人と資料をつなぐ機能を持つ図書館は、今の社会でどのような存在であるべきかを考えます。

図書館サービスに関する科目

図書館サービス概論 「求められる図書館サービス」を考える

図書館サービスとは、利用者が求める資料や情報を提供するサービスのことで、そのサービスは利用対象者によって内容も提供方法も多様化しているため、情報ニーズの違い、年齢や立場の違い、資料や情報を得る目的の違いなどを理解するとともに、これからの図書館の社会的役割を考えます。

情報サービス論 ニーズに応える情報サービスのあり方を学ぶ

図書館では利用者が情報を効率的に得られるように様々なサービスが提供されます。情報サービスの種類、情報探索のためのレファレンスブックの種類と特質、利用者に情報を提供するまでのレファレンスプロセスなど、図書館利用者のニーズに効果的に応える情報サービスのあり方を学びます。

児童サービス論 図書館での児童サービスの意義と役割を理解

公立図書館にとって、子どもや子育て中の親に対する働きかけは重要な意味を持ちます。幼稚園・保育園・小学校などで絵本の読み聞かせや紙芝居が取り込まれるようになってきました。本講義では、児童サービスの意義や現状などを理解し、子ども向けの本の活用について考え、実際に読み聞かせも体験します。

情報サービス演習Ⅰ 実践的な検索能力を身につける

インターネットやWeb上のデータベースでの文献探索（document retrieval）の演習で、実践的な検索能力を養成。データベースの基本構造やその管理システムの機構を理解します。的確なデータベースを選択し、論理演算検索式を作成して必要な情報や資料を入手できるようになることを目指します。

情報サービス演習Ⅱ 例題を通してレファレンスの能力を養う

情報（源）提供の根拠として不可欠なレファレンスツールの種類およびツールの特徴をふまえた探索方法について、演習例題を通して学びます。さらに探索から回答までのプロセスに求められるレファレンスインタビュー技術を習得し、指導サービスの実践的能力を養成します。

図書館情報技術論 図書館業務の基礎的な情報技術を習得

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するために、コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステムなどを学びます。これらの基礎を理解し、情報検索およびマルチメディアの活用・応用能力を身につけます。

図書館制度・経営論 図書館のサービスや経営・運営について

図書館に関する法律、経営の考え方、経営資源、サービス計画、各種調査と評価、管理形態などについて解説。住民の図書館利用行動分析をもとに、図書館のサービス計画や施設の設置・配置のあり方についても扱います。図書館の経営・運営のための施策を、自らが考えることができる力を養います。

図書館情報資源に関する科目

図書館情報資源概論 各情報資源について基本的な理解を図る

図書館で収集し提供される図書・雑誌・新聞・政府刊行物など、各情報資源の種類・生産・流通・収集・保存についての基本を学びます。また印刷メディアのみならず、インターネットを中心に各種提供されるネットワーク情報資源の種類とその特質についても理解を深めます。

情報資源組織論Ⅰ 図書資料の組織化と目録を学ぶ

目録とは、図書資料を主題、著者名、タイトルなどから効率良く検索するために編成されるものです。図書館資料の組織化と目録との関係を集中・共同目録作業（MARC、オンライン目録）を中心にして学び、目録と資料組織化に関する基本的な知識と技術を身につけていきます。

情報資源組織論Ⅱ 図書館の分類とは何か？を知る

資料の持つ主題情報を分類記号や件名に分析・表現して、目録に編成する主題目録法の概要について学びます。分類の定義、目的、手順、区分、構造など基本的な考え方の学習を経て、日本十進分類法の概要のほか、世界の主要な分類法の概要についても理解を広げます。

情報資源組織演習Ⅰ 演習ソフトを使用して実践力を養う

日本目録規則1987年版改訂3版に基づき、和図書目録作成上の基礎知識（条文解釈）を学びます。また、国立情報学研究所の共同分担目録方式（NACSIS-CAT）を疑似体験する演習ソフトを使用。情報資源組織業務について実践的な能力を養い、NACSIS-CATでのコンピュータ目録の作成を目標とします。

情報資源組織演習Ⅱ 件名法と分類法を学び、分類記号を演習

件名法は主題分析の考え方、統制語による主題表現、「基本件名標目表」の概略、細目・件名規定の種類と使い方を学習。分類法は「日本十進分類法」を使用して、一般補助表の記号を付加する方法と分類規定を適用する主題間の扱い方を基本に、図書の主題に適した分類記号を与える演習を行います。

選択科目

図書館施設論

図書館施設の構成要素のそれぞれについて、地域計画、建築計画の考え方に立って概要を説明します。自分が勤務する図書館を新たに造る、または改築するという際に、館内の計画に関して設計者に的確な要望を提示し、協働できるような知識を身につけます。

図書館サービス特論

児童サービスの中から「ブックトーク」と「フロアワーク」に注目。ブックトークの理解からシナリオ作成を経て、本学付設の児童図書室でのブックトークを開催。また児童書・絵本の返本作業、幼児・生徒への読み聞かせに応じるフロアワークなどを体験します。

図書館実習

事前・事後の指導を含め、図書館に関する科目で得た知識・技術をもとに実務を経験。主に道内の公共図書館で実際の業務を経験することにより、講義で学んだ図書館情報学の知識と技能の再構築を図ります。2年次の夏休みを利用し、7～10日間行います。